

# 生活困窮者自立支援制度のご案内



働きたくても働けない、  
住む所がないなど、  
まずはお困り事をお聞かせください。  
地域の相談窓口と一緒に考え、  
解決へのお手伝いをします。  
ご家族など周りの方からの  
相談も受付いたします。

ひとりで抱えこまずに  
まずはご相談ください

相談無料

## <相談から支援までの流れ(相談無料・秘密厳守)>

- 1** まずは地域の相談窓口へ。  
各自治体の窓口配置されている支援員が対応します。何らかの理由で窓口にお越しただけの場合はご自宅にも訪問します。
- 2** 生活の状況を見つめる。  
あなたの生活の困りごとや不安を支援員にお話してください。生活の状況と課題を分析し「自立」に向けて寄り添いながら支援を行います。
- 3** あなただけの支援プランを。  
支援員はあなたの意思を尊重しながら、自立に向けた目標や支援内容を一緒に考え、あなただけの支援プランと一緒に作ります。
- 4** 支援決定・サービス提供。  
完成した支援プランは自治体を交えた関係者の話し合い(支援調整会議)により正式に決定され、その支援プランに基づいて各種サービスが提供されます。
- 5** 定期的なモニタリング。  
各種サービスの提供がゴールではありません。あなたの状態や支援の提供状況を支援員が定期的を確認し、支援プラン通りにいかない場合は支援プランを再検討します。
- 6** 真に安定した生活へ。  
あなたの困り事が解決されると支援は終了しますが、安定した生活を維持できているか、一定期間、支援員によるフォローアップがなされます。

# 生活困窮者自立支援制度を利用して生活を立て直したケース

ケース1

Aさん(26歳男性)

## 求職者への支援のケース

Aさんは、高校時代にいじめに遭い、同年代の人間関係を避けがちになりました。そのようなこともあり、県外の専門学校に進学し、卒業後は飲食店に住み込み就労しました。しかし、職場でのトラブルをきっかけに、職場を無断で休みがちになり、解雇されてしまいました。その後も就職に結びつかず、求職活動も途切れるようになってしまいました。

ケース2

Bさん(38歳男性)

## 長期ひきこもりのケース

Bさんは、両親と3人暮らし。高校を中退後、一時アルバイトを経験したもののすぐに辞めて家に引きこもるようになりました。父親(80歳)は、無口で、とても厳格な性格で、母親(78歳)は、もともと病気がちで足腰は弱いものの、身の回りのことはある程度対応可能です。父親の厚生年金が家計の中心になっており、母親が管理しています。

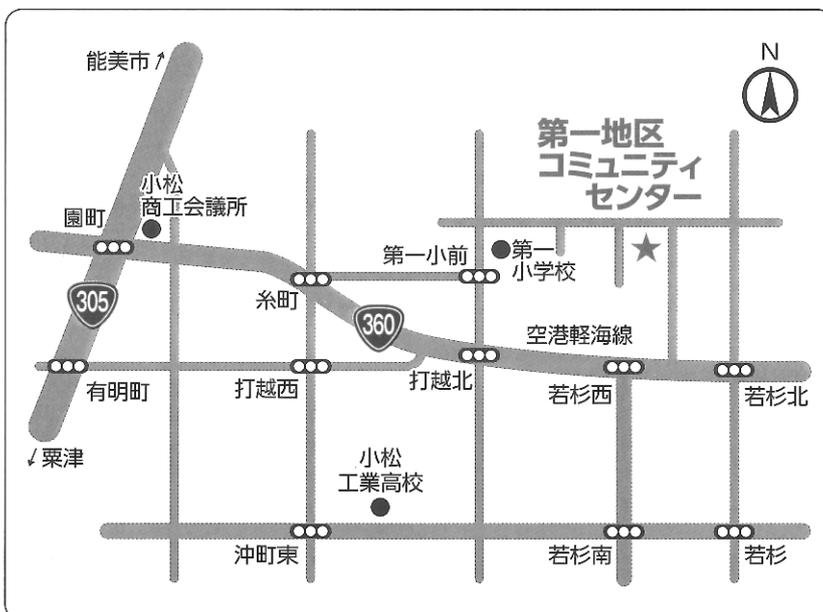
自立相談支援機関による聞き取り・面談・プラン作成

## 住居確保給付金を利用した就労支援

私(Aさん)は貯金が少なくなり、このままではアパートを出ていかねばならず、切迫した状況にありました。支援員からは、まずは住居を確保する必要があるということで、住居確保給付金の制度の説明を受け、給付の決定を受けることができました。就労については、調理スキルがあったことから、飲食業での就労を望みましたが、支援員の就労支援を受けて相談するうちに、違う分野での就労も考えるようになりました。その後ハローワークの職業訓練を受講し、高齢者施設に就職することができました。今では人の役に立ちたいとの思いから、さらに介護の上級資格を取るべく準備を進めています。

## 就労準備支援事業による支援

私(Bさん)は、高校を中退後、アルバイトをしていましたが、アルバイト先でのトラブルで辞めてからは、母親を介護することで、自分の役割がここにあると思うようになり、特に就職する必要性を感じなくなっていました。しかし、支援員より、就労準備支援事業の話聞くうちに興味が湧き、生活リズムを整え、対人スキルを身に付けることを目標としたプログラムを受けることになりました。活動中、徐々に他人との会話にも自信を持てるようになり、プログラム終了後は、飲食店に採用されました。母親の介護は介護保険を申請し、ヘルパーさんに来てもらっており、今では充実した毎日を送っています。



社会福祉法人 小松市社会福祉協議会  
こまつふれあい支援センター

〒923-0811 石川県小松市白江町ツ108番地1  
第一地区コミュニティセンター内

TEL (0761) 21-8555

E-mail soudan@komasya.com

